

7月の参議院議員選挙で、JOC（日本オリンピック委員会）委員の小野清子さんが、初の立候補で見事、当選しました。かつてのオリンピック選手（東京五輪体操3位）で国会議員になった例は、初めてです。これは、日本の女性スポーツの歴史からいっても、画期的なことといえるでしょう。今回は、小野清子議員の誕生を陰で支えた応援者の一人に、スポットを当ててみました。

—選挙の応援、いかがでしたか。

「私の場合、仕事（スケートコーチ）もあるし、体操界とのいろいろなつき合いもあり、最初はとても悩んだんです。中途半端は嫌いな性格ですから、応援するなら徹底的にしたいと思っていました」

—結局、その辺をうまく調整し、納得された上で協力しようと決心されたわけですね。選挙運動の期間中は、各地域の個人演説会に小野さんの代理で出かけられたり、応援弁士でスピーチをされたり、慣れない事ばかりで大変でしたでしょう。

「小野さんのご主人の高さん（元体操五輪金メダリスト）に、選手時代にとでもお世話になりましたし、そのお返しと思ってお手伝いすることにしたんですが、やってよかったです」

—というのは、

「全てが勉強になりました。選挙運動というの

スポーツ界から国会議員を出すのもスケートの振興につながると思い応援しました。

なが く ほ はつ え

長久保初枝さん

（旧姓高見沢）

専修大学在学中の昭和31年、全日本スピードスケート選手権で全種目を日本新記録で制覇。35年のスコパレー、39年のインスブルックと2回の冬季五輪に出場して入賞。その他、全日本選手権で5回、国体で12回の優勝という記録を持つ。現在、スケート普及に取り組むエミー企画を経営。また、財日本スポーツクラブ協会専門委員、TOL副会長、井上喜久子後援会副会長を務める。二女の母。昭和10年、長野生まれ。50歳。



▲「これを機にスケートにも理解を」と長久保さん

は、政治の専門家だけがかわるものかと思っていたんですが、そうじゃないんですね。政治の世界はドロドロしてもっと嫌な感じかと思いましたが、今回、裏方でやっていた人たちのほとんどは、私たちと同じ素人でしたし、ドロドロといったってこれはどこの世界も同じですね」

—結果は、激選の東京選挙区で2位当選。1位の三木忠雄議員（公明党）との差、わずか8百票という圧勝ぶりでした。

「そうですね。小野さんのイメージに合った選挙運動の結果だったと思います」

—最後に、小野議員への今後の注文をお聞かせください。

「私は、スポーツ人」としての小野さんに望みをかけています。同じスポーツといっても、私の方でやっているスケートはとてども地味です。世間的にも派手に扱われるバレーボールや水泳などは、それなりに環境も整っていますが、スケートはそれは貧弱です。

施設だけでなく、引退した後も選手活動で身につけた技や知識を生かす場がなくて、主人（文雄氏）元スケート五輪選手も全く別の仕事をしています。これを、何とか改善してスケートを仕事としていける環境にしていけるように、手を貸して欲しいと思います」